

## 「小浅間山登山 (1)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

軽井沢から北軽井沢に上る、国道 146 号線に「峰の茶屋」という峠があります。この国道の最標高地点です。その峰の茶屋から「小浅間山」という小さな山が見えます。今回はその山に登ってきました。



小浅間山(こあさまやま)は、北軽井沢から見ると、浅間山の裾野の「コブ」のように見えます。浅間山と無関係の山ではなく、「側火山(寄生火山)」と呼ばれる、浅間山の「付属物」のような火山です。

浅間山の本体は、つい最近でも噴火をしている非常に若い火山です。「天明の噴火」は有名ですが、近年でも 2004 年 9 月と 2009 年 2 月に、比較的顕著な噴火を起こしています。



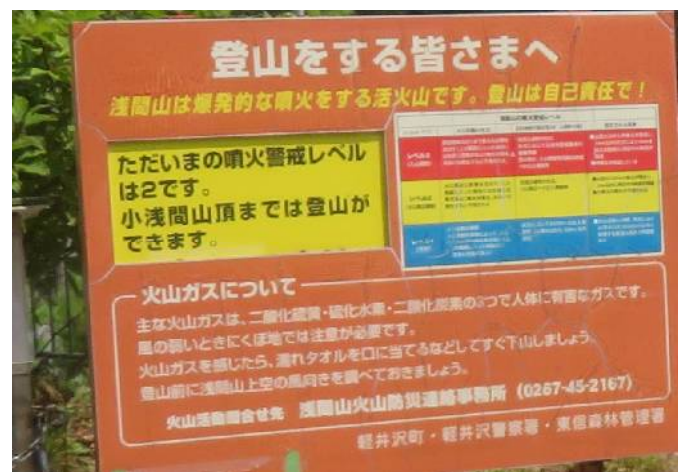
2009 年 2 月 2 日の噴火時には、私が北軽井沢に設置したカメラで、噴火の一瞬を撮影することにも成功しました。夜間の噴火で、撮影に成功した人が少なかったこともあり、この写真は各地の新聞や、大日本の理科教科書(6 年)にも掲載されています。写真では爆発的な噴火に見えますが、実は決して大規模な噴火ではありません。浅間山の噴火史から見れば、ごく小規模な噴火で、短期間で収束しました。



一方の小浅間山は、現在の浅間山よりもずっと古い火山で、活動期は約 2 万年前前後と考えられています。昭和新山や雲仙普賢岳と同じ「溶岩ドーム」の一種です。何度も噴火して形成された浅間山本体とちがって、比較的短期間で形成されたものです。



小浅間山の登山口です。自動車は 10 台ぐらい停められますが、軽井沢駅からのバス停もあります。



峰の茶屋は、小浅間山の登山口であると同時に、軽井沢側からの「浅間山」への登山口でもあります。火山の活動状況によって、どこまで登れるか決まっています。現在は浅間山には登れず、小浅間山までだけ可

能です。2004年の噴火時には、小浅間山にも大きな火山礫や火山岩塊が飛来し、全面登山禁止でした。



登山口には東京大学の火山観測所があります。映像のほか、傾斜計や火山ガスの観測を常時行っています。特に傾斜計観測は、マグマ上昇による山体膨張を捉え、噴火予知に寄与する非常に重要な観測の一つです。



登山道にはさまざまな植物が見られます。オニワラビやマムシグサがたくさん見られました。



「小浅間山の登山道」(画；C.Tanaka)

最初の20分ぐらいは、小浅間山の南麓を巻くような道で、傾斜もゆるく非常に楽です。呼吸も楽なので、ちょうど良い「準備運動」になります。



やがて、根元で4本に分岐した「四本白樺」が見えます。ここを山側に曲がります。この道は以前は地形図に載っていませんでしたが、数年前から地形図にも載るようになりました。



道は樹林帯を抜けて、草地になります。展望がきくようになり、軽井沢市街地、離山（浅間山の側火山の一つ）、妙義山なども見えてきます。



やがて植生がほとんどなくなり、砂礫地に出ます。歩きにくくなりますが「キック・ステップ（蹴りながら歩く）」で難なく登れます。展望はますますすばらしく、浅間山の山頂も見えてきました。秋風も非常に心地よく、快適な登山でした。(つづく)